

〔甲陽軍鑑品第十五〕於陣所制札

一喧嘩は兩方共に成敗、但穿鑿の沙汰有て、道理非を分、坂をこさすべき事、

〔駿臺雜話二〕風俗は政の田地 しかるに、天下國家には、風俗といふ物ばかり大切なるはなし、君

上の威は天の如く、其恐るべき事は雷の如し、たれか背くべきなれども世話に大勢に手なしといふやうに、一世の風俗には勝ちがたし、

〔瓦礫雜考〕瓢箪で鯰。此諺は、もと禪家などに起りしことにや、相國寺如拙といへる僧、この圖を

作れり、略 其序詞云、大相公俾如拙畫新様於坐右小屏之間とあり、略 中大相公とは義滿公にや、

此の頃より專いひ弘し事なるか、

〔下學集下〕忠言逆耳孔子曰、良藥苦於口、而利於

〔日本靈異記中〕智者誹妬變化聖人、而現至閻羅闕、受地獄苦緣第七

行基聞之言、歡矣貴哉、誠知、口傷身之灾、門舌、剪善之銛、鉞、

〔平家物語一〕清水えんしやうの事

院中のきりものに、さいくはうほうしといふ者有、おりふし御前ちかう候けるが、進み出て、天に

口なし、人をもつていはせよと申す、平家もつての外にくわぶんに候間、天の御はからひにやと

ぞ申ける、人々此事よしなし、かべにみ、有、おそろしくとぞ、各さ、やきあはれける、

〔義經記二〕かゝみの宿にて吉次宿にがうとう入事

保元平治よりこのかた、源氏の子孫こ、やかしこにうちこめられておはするぞかし、成人して

おもひ立給ふ事あらば、よくこしらへ奉りてわたし參らせ給へ、かべにみ、岩にくちとい

ふ事あり、くれなるは園生にうへてもかくれなしと申、略 下

〔大鏡一〕おほしき事いはぬは、げにぞはらふくる、心ちしけるか、ればこそむかしの人は、もの